

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104746
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	シルバープラザグループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿児島市谷山中央1丁目4088-14 (電話) 099-801-6470
自己評価作成日	令和5年2月22日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は病院の5階にある為医療との連携がとりやすく、少しの体調不良でも気軽に看護師・主治医に相談できる環境である。緊急時も看護師と24時間連絡をとれる体制をとっており、利用者・家族が安心して過ごせる環境となっている。

利用者ケアの面では利用者・家族の意向を第一に考え、利用者本位のケアが出来るよう職員間で意見を出し合いながら支援行っている。

立地的には谷山の中心地にあり、谷山駅のすぐそばという事もあり交通の便も良く、目の前にスーパーもできており、現在はコロナ禍の為外出を自粛しているが外出が可能になれば気軽に利用者を散歩を兼ねて買い物にお連れすることができるようになる。現在は施設内で季節を感じて頂ける様夏祭りや七夕飾り、クリスマスパーティー等の行事を工夫して行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、国道225号線沿いの法人母体(協力医療機関)があるビルの5階に平成30年1月に移設している。谷山地区の中心部にあり谷山駅に隣接し市谷山支所にもほど近く、金融機関や医療機関、多種の商業施設等が立ち並んでおり、利便性が高く、協力医療機関(法人母体)との連携も十分に図られて、利用者や家族の安心に繋がっている。リビングからは周辺の街並みや車の往来が、また、遠くに桜島等が望めており利用者は景観を楽しみながら平穏に過ごしている。

管理者及び職員は、地域との交流を大切に取り組んでおり、従来は地域のイベントの見学やボランティアや高校生の実習の受け入れ等に努めてきているが、コロナ禍に配慮して現在は買い物やイベントへの参加、ボランティア、施設見学等の受け入れは控えている。高齢者福祉や認知症ケアに関する住民からの相談等には1階の相談室でタブレット等も活用して説明する等、工夫しながら取り組んでいる。

理念に「人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心」を掲げ、利用者の尊厳や特性を大切にしたケアに努めている。個々の利用者がその人らしく、生きがいのある日々となるように思いの汲み取りに努め、趣味や家事の手伝いも意向に沿って個別に支援するなど、家族にも確認しながら取り組んでいる。

管理者及び職員は、気軽に意見を言い合える良好な職場の人間関係を構築しており、日頃の業務の中や職員会議等で意向や要望等を出し合い、個人面談も行って、業務やサービスの改善に努めている。日頃から研修の実施やケアに関する助言に取り組み、休憩時間の確保や勤務シフトに有給休暇の取得や個人的事情も配慮するなど働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「人を愛し、人を慈しみ、人を敬う心」を掲げ、スタッフ間で意見を出し合いながら利用者本位のケアが出来るよう取り組んでいる	ホームの理念は目に付き易い廊下等に掲示し唱和も行って周知を図り、利用者の人格や尊厳を大切にその人らしい平穏な日々が過ごせる支援に努めている。日頃の業務の中や職員全体会議等で振り返りや意見交換を行って、理念に沿った利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	平常時はボランティアの受け入れや地域の祭り見学等出来ていたがコロナ感染対策の為なかなか日常的に人的な交流を行うことができていない。	開設以来、地域の情報を民生委員等から把握し地域のイベントへ参加しボランティアや友人知人の面会、実習生等の受け入れ、買い物時の会話、訪問美容の実施、住民からの相談対応など交流に努めてきているが、現在はコロナ禍に配慮して外出やボランティア等との交流は控えている。コロナ感染の収束状況を把握しながら、徐々に交流の再開を検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	平常時は学生の実習受け入れ等行っている。現在は感染対策の為自粛している。家族や地域の方からの相談に関しては電話や面談により行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在会議開催にかえて書面での情報提供を行い、委員からの質問や意見を電話にて聞きとりを行い、職員会議の場でとりあげサービスの改善を図っている。	会議は家族（全家族）や民生委員、地域包括支援センター等が参加して定期的に開催しているが、現在はコロナ禍に配慮して書面での会議が続いている。委員にはホームの現況や行事、ヒヤリハット事例、身体拘束適正化委員会の報告等について会議の前後に意見等を文書で貰っており、内容を職員全体会議等で検討して運営やサービスの改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは介護保険の更新等の各種申請や報告とともに相談、指導を仰ぐなど連携を図っている	市谷山支所や地域包括支援センターの窓口や電話等で介護保険や各種制度、感染症予防に関する協議や相談等を行って助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市主催のズームによる会合や研修にも参加し、介護相談員の受け入れも予定するなど運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員全体会議の中で勉強会を実施し身体拘束を行わないケアについて確認を行っている。また、職員間の風通しをよくし拘束にあたる行為が無いよう声を掛け合えるよう取り組んでいる	身体拘束に関しては運営規定等に明記され、計画的な研修の実施で認識を共有している。身体拘束適正化委員会を年4回開催すると共に日頃からケアの振り返りや意見交換を行って拘束の無いケアに取り組んでいる。スピーチロックを含む不適切な言動には、その都度注意し合って改善を図り、不安定な状況の利用者には寄り添いや対話、ベランダの菜園の植物を一緒に愛でる等工夫して安定を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中で虐待防止について考える機会を設け、意見を出し合い理解を深める取り組みを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で取り上げ学ぶ機会を設けている。県社協の福祉サービス利用支援事業を利用されている入居者もおられ、権利擁護に関するサービスを身近に感じることができている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族に対しては入所契約時に意向や疑問点を聴きながら十分な説明を行い、入居後も定期的に聞きとり等行いその都度説明行う事で不安や疑問点の解消を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は日常の会話や仕草、表情からくみとる様努めている。家族の意見を貰う為意見箱を設置しているがコロナでの面会制限の為機能していない為、「愛だより」や電話で近況報告行い、その際に意見や要望を聞きとり、職員間で共有しサービスの改善・向上に繋がられるよう努めている	日頃から利用者や家族には意見や要望を言い易い雰囲気づくりに配慮している。利用者の思いは日頃の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会（窓越し）や電話、手紙等で、また、毎月写真を掲載した「愛だより」や利用者毎の詳細な状況報告書を送付して要望等を出してもらうように取り組んでおり、内容を職員全体会議で協議して改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の業務の中や会議の場で気軽に意見を言える雰囲気づくりに努めている。また、個別でも職員の意見を聞く機会を設けそれぞれの意見を反映できるよう努めている	管理者及び職員は気軽に意見や要望が言い合える人間関係を築いており、業務の中や職員全体会議、必要に応じて個人面談の実施で要望等を把握し、内容によっては法人本部とも協議しながら改善を図っている。ケアへの助言や研修に努め、休憩時間（一時間）の確保や勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトに関して職員個々の事情に合わせ勤務時間帯や休日等配慮行い働きやすい環境づくりに取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回勉強会を行い知識や技術の向上を図り、外部の研修の案内を周知し参加を促している</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>谷山地区のグループホーム協議会に参加し情報交換等他事業所との連携を図っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居前に本人との面談を行い本人の意向や不安に思っている事等聞きとり安心して入居できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談の段階で不安や要望等を聞き十分な説明を行う事で安心してもらえるよう努めている。また入居後も定期的に連絡をとり良好な関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人・家族の希望を聞きながら他サービスを含めた本人にとって最善の支援がどのような物なのか話し合いを行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はホームは生活の場であるという意識をもって本人に出来ることを見極め役割を持ってもらうことで一方的な介護にならない様努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には月1回広報誌「愛だより」の送付や電話での近況報告を行い繋がりを持ち続けられるよう支援行っている。また、通院等家族に対応して頂くこともあり、協力して支援行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策により面会に制限はあるが、その中でもテレビ電話やガラス越しの面会等可能な限り家族や知人とのつながりを持てるよう支援行っている	利用者毎の馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認しながら支援している。感染予防に配慮しながら家族との面会を窓越しやテレビ電話を活用して実施し、日常的にベランダでの散歩等を楽しんでいる。家族との電話や手紙の取り次ぎに努め毎月発行の「愛だより」や担当職員による生活状況を詳細に伝えるなど工夫しながら関係の継続に取り組んでおり、携帯電話を所有している利用者は日常的に馴染みの人との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に注意を払いながら、職員が間に入り良好な関係を持てるよう支援行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も希望があれば家族からの相談を受け可能な限り支援できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、態度から本人の思い・希望をくみ取れるよう努めている。困難な場合は家族と相談しながら本人にとって最善な暮らしを見つけられるよう努めている	重度化で会話やコミュニケーションが困難な利用者もいるが、個々の思いを日頃の会話や仕草等で汲み取り、その人らしい生きがいのある暮らしとなるよう家族とも連携して支援している。選択肢や問いかけるような働きかけで自己決定を尊重したケアに努め、趣味（パソコンゲーム、短歌を詠む、音楽やテレビの視聴他）や家事（菜園の手入れや調理の手伝い他）への取り組みもプランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から本人・家族との面談の中で生活歴やサービス利用経過の把握できるよう努めている。入居後も本人との会話の中でどのような暮らしをしてきたのか把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との会話や行動観察、バイタル測定行い本人の生活リズムや出来る事、心身状態の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族、主治医や看護師、介護職員等関係者それぞれの意見を取り入れ本人の現状にあった計画を作成できるよう取り組んでいる	本人・家族の思いを把握し、主治医の指示やモニタリング、ユニット会議時の意見を基に、生きがいや趣味等にも配慮した詳しい介護計画を作成している。ケアの実施状況は申し送りや業務日誌等で共有し、利用者の状況変化時には計画を実態に沿って修正して改善を図っており、計画の内容は家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別のケア・気づきに関しては支援記録に記入し共有している。また、個別ケア内容の変更や本人の状態に変化があった場合等は申し送りノートに記入し情報共有の徹底に努めている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>支援内容をその時々ニーズに合わせてその都度変更・実践しながらより本人・家族の意向に沿った支援が行えるよう努めている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>コロナ対策の為外出は自粛しているが地元の馴染みのある街並みや桜島を眺めながら昔の話をするなど少しでも楽しみが持てるよう支援行っている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に本人・家族と相談行いほとんどの入居者が階下の協力病院を主治医としており、月2回の訪問診療・週2回看護師来所し健康チェックを受けられている。体調不良時には早期に病院に相談し適切な医療を受けられる体制となっている</p>	<p>利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在は殆どの利用者が協力医療機関を主治医としている。定期的な訪問診療（月2回）が実施され、専門医へは基本家族の同行であるが状況によりホームでも対応して適切な医療が受けられている。医療連携による看護師の訪問が週2回あり、衛生や健康管理が徹底され協力医療機関との連携も十分で、利用者及び家族の安心に繋がっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週2回協力医療機関の看護師の訪問があり健康チェックを受けている。また少しの不調でも気軽に相談できる体制となっており指導・助言を受けられる環境となっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	利用者入院時には入院先医療機関に利用者の情報提供を行い適切な治療が受けられるようにしている。また、入院中は定期的に入院先医療機関と連絡を取り、利用者の状態把握に努めている		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に重度化や終末期に出来ることを説明し、その時点での意向確認を行っている。その後も状態が変化した時等はその都度意向を確認し主治医や看護師とも方針を共有しながら支援を行っている	重度化や終末期のホームの対応は指針を整備し入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、同意書も貰っている。利用者が重度化した時点で主治医や家族と十分に話し合い可能な限り希望に添った支援をチーム体制で取り組んでおり、毎年1件程度の看取りの実施がある。看取り後は振り返りや意見交換を行ってスキルアップや不安感の軽減を図っている。重度化した時点で特別養護老人ホームや医療機関に移る利用者もいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	勉強会等で定期的に応急手当や初期対応についてとりあげている。また、マニュアルを作成し手順を周知している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回階下の病院と合同で防災訓練を行い災害に備えている。また隣接する有料老人ホームと避難誘導など応援し合えるよう協力体制をとっている</p>	<p>年2回（うち1回は消防署立ち合い）夜間発生も想定した火災中心の訓練を1階の協力医療機関と合同で実施し、避難や通報、消火器等の取扱いの研修も実施している。日頃から災害パターンを想定した避難経路の確認や災害事例を基に意見交換するなど認識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置、防火扉等が設置され、連絡網の整備や業者による設備の点検を行い、災害時の食料や飲料水、介護用品等は法人本部及びホーム双方で備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者それぞれの人格を尊重しその人の性格や習慣等に配慮した言葉かけ、対応を心掛け、不適切な言葉かけがないよう職員同士で助言し合えるよう努めている	人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については研修の実施やケアの中で認識を共有し、利用者の思いや個性も大切にされた対応に努めている。居室への入室時は声掛けやノックを励行し、衣服の選択や余暇時間の過ごし方は選択肢も提示するなど自己決定し易いような働きかけを行っている。情報紙への掲載や居室の氏名の表示については入所時に意向を確認して対応おり、帳票等も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助を行う際は声かけ行い意思確認を必ず行い自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった時間はあるが出来るだけ時間にとらわれず本人のペースや希望に合わせて過ごせるよう支援行えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の出来ることに応じて支援行いながら本人の好きな衣服を身に付けられるようにしている。意思疎通の難しい利用者に関しては職員がその季節や場面に応じた服装が出来るよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人一人の嗜好や体質、病気を考慮し栄養バランスの良いメニューを栄養士が作成し提供している。食後は食器やお盆拭き等利用者にも手伝っていた	利用者の好みや形態、栄養バランス、アレルギーへの代替品、季節感等に配慮したメニューを法人の栄養士が作成し、米飯、汁物以外は法人母体の医療機関の厨房から届けられている。おせちや誕生日等の行事食やおやつはホームで調理し、誕生日のケーキや敬老会の仕出し、運動会の弁当、調理レクリエーションの取り組み等、食事が楽しみなものになるよう工夫しており、利用者も準備や片付け等を楽しみながら一緒に行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認・記録し状態の把握を行っている。食事や水分摂取量が少ない場合は主治医や栄養士に相談を行い助言貰っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて自身で歯みがきしてもらえよう声かけ行ったり、介助行う事で口腔内を清潔に保てるよう支援行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者それぞれの排泄のペースを把握しトイレ誘導行う事で出来るだけトイレで排泄行えるよう支援している。	利用者毎の排泄リズムを把握し心身の状況に配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を2人介助も取り入れながら支援している。個々の状況に応じて夜間はポータブルトイレ（4人）やオムツ（1人）を使用するなど工夫しており、介護用品の消費が減少するなどの改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや運動を促し便秘予防を図っている。看護師や主治医に相談し必要であれば薬の処方を受けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴の曜日・時間を決めてはいるが、意思確認を行い本人の希望や体調に合わせて日や時間を変えて入ってもらっている</p>	<p>利用者の心身の状況に配慮しながら週2回午前入浴を基本に、2人介助や清拭やシャワー浴も行って清潔保持に努めている。温度や時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で気持ち良く楽しんでもらい、入浴後は水分補給や軟膏の塗布等を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで時間や職員の変更等の工夫で意欲を待つように努めている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>ホームのスケジュールに合わせ無理に離床してもらうことはせず本人の希望・状態に合わせて休んで頂いている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服用している薬の説明書に目を通し薬の内容や用法を理解したうえで服薬支援できるよう努めている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物たたみや食器拭き等生活の中での役割を持ってもらったり、歌や工作、ぬり絵等利用者が興味のあるものを探しレクに取り入れるようにしている</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>平常時は月1回の行事として外出レクを行い、また、個別でも人員的に可能な範囲で買い物やドライブ等外出支援行っているが現在コロナウイルス感染対策の為日常的な外出はできていない。</p>	<p>コロナ禍により外出計画も十分には実施出来ない状況であるが、利用者の状態に応じたケアでベランダの菜園での日光浴や散歩、家族との他科受診を実施し隣のユニットを訪問して景色を眺めながらの交流を楽しんでいる。全員での買い物や花見のドライブ等の外出は控えており、リフレッシュを図るため室内で季節行事（運動会や夏祭り他）を実施し軽い体操やゲーム、テレビや音楽の視聴、季節に応じた作品作りなど工夫して取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では預かり金や現金所持はお断りしている。本人が希望される物、必要物品は家族に用意してもらったり、ホームが立て替えて買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持たれている利用者は好きな時に電話を掛けており、操作が分からない時は職員が支援している。所持していない方も希望時はホームから電話をかけ、話ができるよう支援している。手紙は視力の悪い方には職員が内容を読み上げる等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下にはその季節をテーマにした利用者の作品などを飾っている。また、エレベーターホール横には菜園があり、季節の花や野菜を植えられている。	明るく余裕あるスペースのリビングや廊下には季節感のある利用者の作品や写真、花等が飾られて和やかで落ち着いた雰囲気になっており、窓から隣接の谷山駅や街並み、車の往来、桜島等の景色等が眺められている。利用者の動線に配慮してテーブルセット、テレビ等が設置され、台所からは調理の音や臭いが伝わるなど家庭的な雰囲気になっている。ベランダの菜園には季節の野菜や花が植えられ、清掃や空調、整理整頓を徹底するなど環境整備に努めており利用者は平穏な日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では自席の他にも椅子を用意し思い思いの場所で過ごせるよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者・家族それぞれの意向を反映し、本人が過ごしやすいよう使い慣れたものを使用したり、配置を変える等の工夫を行っている。</p>	<p>居室はフローリングの床に腰高窓の設置で明るく余裕あるスペースが確保され、エアコン、ベッド、洗面台、床頭台が備えられている。利用者は長年愛用していた机やテレビ、家族写真、パソコン、位牌等を持ち込み、自身が作成した貼り絵等の作品や母の日や長寿祝いで頂いた記念品等も飾って家庭同様に落ち着ける環境になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者それぞれの能力に応じ見守り・介助行い出来る事は自分で行えるよう支援行っている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない